

令和5年6月7日
豊島区

独立行政法人日本学生支援機構が発行する ソーシャルボンドの購入について

令和2年7月、豊島区は東京都で初めて「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定され、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」社会の実現に取り組んでいます。

基金の運用においてもSDGsの推進に貢献するため、令和5年6月7日、独立行政法人日本学生支援機構が発行する「ソーシャルボンド（SDGs債）」を購入しました。本区はこれまでSDGs債を数銘柄購入してきましたが、教育関連のソーシャルボンドを購入するのは、今回が初となります。

○ 選定理由

- ・ 「ソーシャルボンド（SDGs債）」により調達された資金は、第二種奨学金の在学中資金に充当される。そのため、債券の購入は、SDGsの目標4.「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。」に資金面で貢献するものであること。
- ・ 独立行政法人が発行する債券であり、利子補給金や国庫補助金による国からの財政面のサポートがあり、安全性が高い銘柄であること。
- ・ 国内債券市場において、「教育」という社会的課題の解決に資する債券の発行事例は限定的であり、本債券の希少価値が高いこと。

今後も本区は、SDGs未来都市として、SDGsの理念や目標を踏まえて積極的な取り組みを推進し、国際アート・カルチャー都市の実現に努めてまいります。

※ SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは

「SDGs未来都市」とは、SDGsの理念に沿った取り組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通し、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を内閣府が選定するもの。また、その中で特に先導的な取り組みが「自治体SDGsモデル事業」として選定される。（参考リンク：[「SDGs未来都市」豊島区](#)）

※ ソーシャルボンドとは

資金使途が社会的課題の解決に資するものに限定される債券。独立行政法人日本学生支援機構が発行するソーシャルボンドは、教育の機会均等を与える取り組みを資金面で支援する債券である。